

博士論文最終審査結果報告書

看護学研究科	学籍番号 氏名	166101 赤堀 八重子
論文題目 特定保健指導該当者を対象とした未利用の動機測定尺度の開発		

審査委員

区分	職名	氏名
委員長	教授	山下 暢子
委員	教授	宮崎有紀子
委員	教授	高井ゆかり

論文の要旨

本研究は、特定保健指導の利用行動が未利用となる動機を把握するために、未利用の動機の程度を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性の検証を通して、特定保健指導該当者を対象とした未利用の動機測定尺度を開発することである。

①開発する尺度の概念の明確化、②先行研究などに基づく質問項目の作成、③専門家会議・パイロットスタディによる内容的妥当性の検討、④特定保健指導該当者を対象とした本調査の実施、⑤項目分析、⑥信頼性・妥当性の検討という手続きを経た。

質問項目 116 項目を作成し、専門家会議・パイロットスタディを経て 50 項目とした。また、これら 50 項目からなる尺度を用いて調査を行った。対象者は、平成 29 年度の特定保健指導該当者のうち積極的・動機づけ支援者 3,738 名であった。質問紙回収数は 1,849 部、有効回答 1,459 部であった。天井効果・床効果の検討、項目間の相関係数・I-T 相関係数の算出と検討、G-P 分析、探索的因子分析などを行い、32 項目を削除した。これらを通して、4 下位尺度 18 項目からなる「特定保健指導該当者を対象とした未利用の動機測定尺度」が完成した。クロンバック α 信頼性係数の算出により尺度が信頼性を確保していることを確認した。また、基準関連妥当性には一部課題が残るものの、確認的因子分析、既知グループ技法により構成概念妥当性を確保していることを確認した。

論文審査の結果の要旨

審査員全員が出席の上、口述試験を行った。主として次の試問を行った。

1. 研究目的との整合性を図るための研究対象者の範囲
2. 探索的因子分析の結果の解釈
3. 尺度の信頼性の検証方法決定の根拠
4. 構成概念の規定

これらに対して回答がなされ、審査員全員が審査基準を満たしていると判断した。

また、公開論文発表会にて、画面を用いて、規定時間内に発表が行われた。発表後、主として次の質問があり、適切な回答がなされた。

1. 尺度の活用方法
2. 対象者の数と特性
3. 修士論文の結果と尺度項目の関係

以上の発表および質疑応答を踏まえ、審査員全員がいずれも、学位を授与するために必要な学識を有するものと認めた。